

科目ナンバリング		G-AAA01 51101 LJ31			
授業科目名 <英訳>	自然生態論 Ecological History I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 小坂 康之		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金1	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
<p>アジア各地にみられる自然環境の改変、農業の近代化、農村の過疎化などの現象は、日本がこれまでに経験した、あるいは現在まさに直面している課題と共通である。またアジアの自然環境や人々の生活は、グローバルな企業活動や情報・流通網をつうじて、私たちの生活と密接に関係している。そこでアジアの自然環境や農業に関する現象を、日本との比較においてとらえ、その問題点や可能性を多面的に考察する。</p>					
[到達目標]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアの自然環境や農業に関する諸事象を理解し、自分で問題を設定して研究する力を習得する。</li> <li>・植生や植物（野生植物、雑草、農作物）を指標に、地域の自然環境や農業を見る視点を習得する。</li> <li>・文献により重要な概念を学ぶとともに、野外実習や標本資料をつうじてモノを覚え、フィールドワークでの観察力を養う。</li> </ul>					
[授業計画と内容]					
<p>基本的に以下の計画で講義を進める。ただし講義の進み具合等により、順序や同一テーマの回数を変えることがある。</p> <p>第1回 世界史を変えた50の植物  第2回 植物から地域をみる：植物の多様性  第3回 野外実習：東山の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更）  第4回 野外実習：鴨川の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更）  第5回 野外実習：北山の自然環境（天候等によって日程やテーマを変更）  第6回 植物から地域をみる：栽培植物と農耕の起源  第7回 植物から地域をみる：大航海時代とプラントハンター  第8回 農業から地域をみる：水田稲作  第9回 農業から地域をみる：焼畑耕作  第10回 農業から地域をみる：里山の環境利用  第11回 植物から地域をみる：森林の植生  第12回 農業から地域をみる：日本の林業  第13回 植物から地域をみる：木材の利用  第14回 植物から地域をみる：植生と植物利用  第15回 期末レポート・フィードバック</p>					
[履修要件]					
特になし					
----- 自然生態論 (2)へ続く -----					

## 自然生態論 (2)

### [成績評価の方法・観点]

レポート試験の成績(70%)と平常点(30%)で評価する。  
平常点評価には、授業への参加状況や小レポートの評価を含む。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

アンナ・レウイントン 『暮らしを支える植物の事典 衣食住・医薬からバイオまで』(八坂書房, 2007年) ISBN:978-4-89694-885-1 (そのほか、毎回の講義で紹介する。)

### [授業外学修(予習・復習)等]

内容を理解し、履修者自身の研究テーマと関連付けて考察するため、授業中に配布または指示する資料を用いて予習・復習する。

### (その他(オフィスアワー等))

授業に関する質問は、メールや研究室で対応する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA01 51102 LJ31				
授業科目名 <英訳>	自然生態論 Ecological History II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 古澤 拓郎		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
生態系と人間との関わり合いを、理論と研究方法論から学ぶ。理論では、生態系における人間、人類の進化と適応、環境と生存・健康といった話題を取り上げる。方法論は、フィールドワークに関わるものが中心である。					
<b>【到達目標】</b>					
自然科学と人文社会科学を横断した理論と、フィールドワークや統計解析の手法を習得する。これらを通じて、研究者として論文を読んだり書いたりするための技術を身に着ける。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
以下のスケジュールを予定している。講義だけでなく、学生には輪講や発表を課す。また、授業初回時に各学生の関心を聞き、その関心に合わせてスケジュールを変更することもある。					
第1回～3回．理論編：生態系と人間／人類の進化と適応／環境と生存・健康の関わり 第4回～7回．方法論編：行動観察／環境調査／健康科学調査／統計学的手法 第8回～11回．現代的課題編：生物多様性と人間／人口増加・気候変動と地域社会／環境保全の倫理 第12回～15回．成果公表編：論文執筆方法／研究発表手法					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
出席・授業中の発表・議論への積極的参加（80％）、レポート（20％）に基づき、総合的に評価する。					
<b>【教科書】</b>					
授業中に指示する					
<b>【参考書等】</b>					
（参考書） 授業中に紹介する					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
【予習】輪講などの課題は事前に読んで、専門用語や外国語の意味を調べてから授業にのぞむこと 【復習】学んだ理論・手法などは、自身の研究に取り入れられるレベルにまで復習し、次回授業とレポートに盛り込むこと					
（その他（オフィスアワー等））					
質問等は、随時メールや研究室で受け付ける。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA01 81103 LJ31				
授業科目名 <英訳>	社会生態論 Environmental Ecology I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 木下 こづえ		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金3	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
行動生態学の考え方を基に「動物（人を含む）の行動は生態や社会環境の中でどのように進化するのか？」を理解できるようになることを目的とします。					
<b>【到達目標】</b>					
動物（人を含む）の進化に関する基本的な考え方を身につけ、動物の行動について理解できるようになること。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
講義では、行動生態学（デイビス・クレプス・ウェスト、原著第4版）を基に講義を行う。下記は暫定案であり、詳細内容は受講者と相談の上、決定する。 第1回：行動に対する色々な種類の疑問をどのように整理するのか 第2回：行動の適応的な有利さについての仮説をどのように検証するのか（種間比較） 第3、4回：意思決定；個体の意思決定（意思決定の発達など）、進化的時間レベルでの意思決定（捕食者と餌動物など） 第5、6回：競争；他個体との競争（ゲーム理論的手法）、群れ生活者のコストと利益 第7～10回：繁殖；配偶子サイズや親の投資、子の世話、配偶システム、性の配分 第11～14回：社会行動；利他行動、協力行動、利他行動と対立、コミュニケーション 第15回：結論（他の研究分野との相互関係）					
<b>【履修要件】</b>					
特になし。 授業中必要になる知識については、授業内で適宜補足します。					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
レポートおよび出席状況による絶対評価とします。					
<b>【教科書】</b>					
授業中に指示する					
<b>【参考書等】</b>					
（参考書） 授業中に紹介する					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
各回でさまざまな研究例を紹介します。 興味をもったテーマについて関連した文献を原著で読んでください。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-AAA01 51106 LB31			
授業科目名 <英訳>	人間生態学 Field Medicine	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授 坂本 龍太		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
フィールド医学は、疾病、老化のありさまを、自然環境、文化背景との関連でもう一度、捉えなおそうとする研究領域である。本授業では、フィールド医学の系譜をたどるとともに我が国及びヒマラヤ地域などで行ってきた研究活動を紹介する。病院から地域に出て生活の場を重んじるフィールド医学のよりよい実践を目指し、世界の中で我々が抱えている課題を共有し、今後のあり方とともに議論していきたい。					
【到達目標】					
先人たちや同時代を生きる人々のパイオニアスピリッツや哲学を学び、自身で課題を発見し、自主的に物事に取り組む能力を育む。					
【授業計画と内容】					
第1回 自己紹介及び講座紹介 第2回 フィールド医学 第3回 自由とパイオニアスピリッツ 第4回 目の前の一人の患者からはじまる研究 第5回 傍らに棲むレジオネラ 第6回 高所環境における老い 第7回 内なる地球環境問題 第8回 ドムカル谷における高齢者の健康としあわせ 第9回 地域研究における友好の意義 第10回 ブータンにおける地域在住高齢者ケア計画 第11回 診療所から学ぶ人々の暮らし 第12回 医療の限界と役割 第13回 死生観と医療の意義 第14回 ヒマラヤの長寿者からの伝言 第15回 総合討論 試験 実施しない					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
出席による発表、討論、ならびにレポートによって行う。					
【教科書】					
使用しない					
----- 人間生態学 (2)へ続く -----					

## 人間生態学 (2)

---

### [参考書等]

(参考書)

坂本龍太 『ブータンの小さな診療所』 (ナカニシヤ出版) ISBN:978-4779508974

奥宮清人 『生老病死のエコロジー』 (昭和堂) ISBN:978-4812210673

### [授業外学修 (予習・復習) 等]

授業中に感じた疑問や課題を大切に、それに関する事について調べたり、自分自身の頭でよく考える。

### (その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51151 SB31			
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment I		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授 竹田 晋也
				アジア・アフリカ地域研究研究科	教授 古澤 拓郎
				東南アジア地域研究研究所	教授 山崎 渉
				アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授 小坂 康之
				東南アジア地域研究研究所	准教授 坂本 龍太
				アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授 木下 こづえ
				アジア・アフリカ地域研究研究科	助教 中村 亮介
配当学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
東南アジアの自然環境と、それを取りまく社会生態環境の特質を検討するための基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこなう。					
【到達目標】					
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。					
【授業計画と内容】					
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ					
【履修要件】					
博士予備論文審査にまだ合格していない者。					
【成績評価の方法・観点】					
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-AAA01 51152 SB31				
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment II		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	竹田 晋也
				アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	古澤 拓郎
			東南アジア地域研究研究所	教授	山崎 渉	
			アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	小坂 康之	
			東南アジア地域研究研究所	准教授	坂本 龍太	
			アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	木下 こづえ	
			アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	中村 亮介	
配当学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・後期	
曜時限	水3	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語	
【授業の概要・目的】						
東南アジアの自然環境と、それを取りまく社会生態環境に関する具体的な事例を取りあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。						
【到達目標】						
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。						
【授業計画と内容】						
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ						
【履修要件】						
博士予備論文審査にまだ合格していない者。						
【成績評価の方法・観点】						
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。						
【教科書】						
授業中に指示する						
【参考書等】						
(参考書) 授業中に紹介する						
【授業外学修(予習・復習)等】						
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。						
(その他(オフィスアワー等))						
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。						



科目ナンバリング		G-AAA01 71153 SB31				
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment III		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	竹田 晋也
				アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	古澤 拓郎
				東南アジア地域研究研究所	教授	山崎 涉
				アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	小坂 康之
				東南アジア地域研究研究所	准教授	坂本 龍太
				アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	木下 こづえ
				アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	中村 亮介
配当学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・前期	
曜時限	水5	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語	
【授業の概要・目的】						
東南アジアの自然環境と、それを取りまく社会生態環境に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。						
【到達目標】						
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。						
【授業計画と内容】						
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ						
【履修要件】						
博士予備論文の審査に合格した者。						
【成績評価の方法・観点】						
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。						
【教科書】						
授業中に指示する						
【参考書等】						
(参考書) 授業中に紹介する						
【授業外学修(予習・復習)等】						
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。						
(その他(オフィスアワー等))						
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。						

科目ナンバリング		G-AAA01 71154 SB31			
授業科目名 <英訳>	生態環境論研究演習 Research Seminar on Ecology and Environment IV		担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授 竹田 晋也
				アジア・アフリカ地域研究研究科	教授 古澤 拓郎
				東南アジア地域研究研究所	教授 山崎 涉
				アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授 小坂 康之
				東南アジア地域研究研究所	准教授 坂本 龍太
				アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授 木下 こづえ
				アジア・アフリカ地域研究研究科	助教 中村 亮介
配当学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水5	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
東南アジアの自然環境と、それを取りまく社会生態環境に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。					
【到達目標】					
研究者となるに必要な知識と技術を習得する。特に、研究の構想と計画立案、文献検索と学術動向の把握、研究成果の公表、議論する能力などである。					
【授業計画と内容】					
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめ					
【履修要件】					
博士予備論文の審査に合格した者。					
【成績評価の方法・観点】					
発表内容および出席により評価するが、ゼミの中での積極的な姿勢も考慮に入れる。					
【教科書】					
授業中に指示する					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
自分の発表に向けては、十分な努力と時間を費やして準備をすること。また、発表の前後には、指導教員とよく話し合うこと。 他の学生が発表する際には、その内容を理解し、議論することができるように、予習と復習を行うこと。					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA01 51205 LJ31				
授業科目名 <英訳>	地域歴史論 History and Society	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊藤 正子		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火3	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>日本人の歴史認識をめぐって東アジア諸国の人々とのあいだには依然としてわだかまりが存在している。現在の東南アジア諸国も、かつてさまざまな形態で日本の支配を受け、直接・間接の被害を被った。しかし東南アジア諸国は、東アジア諸国のように一般大衆レベルでも国家レベルでも、被害を訴える声を今のところあまりあげていない（その理由も考察していきたい）。そのため、20世紀前半において日本が東南アジア地域を占領していたこと自体さえ、現在日本国内では正確に認識されているのか疑問がある。東南アジア諸地域に関していかなるテーマを設定し、いかなるディシプリンでもって研究していくにせよ、自分が対象とする地域が、過去に日本とどのような関係をもっていたのか理解しておくことは欠かせない。そのため、この授業では東南アジア各国（各地域）と日本との関係を振り返り、必要に応じてより詳細な研究書にも目を通す。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>アジア・太平洋戦争期に、東南アジアの国や地域を日本がどのように統治したか、しようとしたか、各地域の比較を通して、全体像を把握する。さらに、日本の占領について、現在東南アジア各国がどのように語っているかについても、理解する。</p>					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>第1回 担当決定、参考文献紹介  第2回 BC級戦犯について  第3回 東南アジアで裁判を受けた朝鮮人BC級戦犯について  第4回 マレーシア  第5回 シンガポール  第6回 インドネシア  第7回 フィリピン  第8回 タイ  第9回 ビルマ  第10回 ベトナム  第11回 残留日本兵  第12回 フィリピンのマカピリ  第13回 フィリピンのキリノ大統領の許しと和解  第14回 討論  第15回 まとめ</p>					
<b>【履修要件】</b>					
<p>第1回目の授業に必ず参加すること。第一回目は欠席するが、登録を希望する人はメールにて事前に連絡してください。</p>					
----- 地域歴史論(2)へ続く -----					

地域歴史論(2)

**[成績評価の方法・観点]**

出席状況、担当回の発表のでき、積極的な発言姿勢を考慮する。

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)

授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

担当回でなくとも、資料に各自目を通して授業に出席すること。

**(その他(オフィスアワー等))**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51206 LJ31			
授業科目名 <英訳>	宗教社会論 Religion and Society	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 片岡 樹		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>本年度は、京大を中心とする東南アジア研究の伝統を継承しながら、現代の我々がそこに何をつけ加えていくべきかを考えることにする。京都大学の東南アジア研究は、これまでユニークな問題提起を数多く行ってきた。宗教論もまたその一部に含まれる。本講義ではその中でも、タイ国に関する学際的研究の成果を読み直すことで、京大の良質な知的伝統の基礎に立った東南アジア宗教論への視座を涵養することをめざす。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東南アジア地域研究にたずさわる上での基本語彙を養う。</li> <li>・ 東南アジア宗教に関する重要論点を理解する。</li> <li>・ 日本と東南アジアとを相互に関連づけながら問題を構成する能力を養う。</li> <li>・ 国内外の基本文献に関する知識、および、継続的に学術論文を読みながら個々の論文の問題点を抽出し討論する能力を養う。</li> <li>・ 先行文献の講読を通じ、それらを土台に自分の論文の問いを構成する訓練を行う。</li> <li>・ 討論術や配付資料づくりなどの発表技術の向上をめざす。</li> </ul>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>授業計画は次のとおりである。</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：石井米雄『タイ仏教入門』（1）</p> <p>第3回：石井米雄『タイ仏教入門』（2）</p> <p>第4回：校外学習</p> <p>第5回：石井米雄『上座部仏教の政治社会学』（1）</p> <p>第6回：石井米雄『上座部仏教の政治社会学』（2）</p> <p>第7回：校外学習</p> <p>第8回：石井米雄『上座部仏教の政治社会学』（3）</p> <p>第9回：石井米雄『上座部仏教の政治社会学』（4）</p> <p>第10回：校外学習</p> <p>第11回：石井米雄編『タイ国 - ひとつの稲作社会 - 』（1）</p> <p>第12回：石井米雄編『タイ国 - ひとつの稲作社会 - 』（2）</p> <p>第13回：石井米雄編『タイ国 - ひとつの稲作社会 - 』（3）</p> <p>第14回：校外学習</p> <p>第15回：石井米雄編『タイ国 - ひとつの稲作社会 - 』（4）</p>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
----- 宗教社会論 (2)へ続く -----					

## 宗教社会論 (2)

### [成績評価の方法・観点]

成績評価は 文献講読の分担（50点）、 平素点（討論への参加。50点）により行う。

### [教科書]

授業中に指示する  
教材の中には絶版書籍も含まれるため、適宜教室内で配付する。

### [参考書等]

（参考書）  
授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

履修者は授業中に適宜紹介する参考文献にも目を通しておくことが望ましい。

### （その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは定めない。在室時にはいつ訪ねてきてくれてもかまわない。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA01 51208 LJ31				
授業科目名 <英訳>	地域相関論 State and Society I (Comparative State Formation)	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 岡本 正明		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>東南アジアにおけるデジタル化のインパクトを多角的に検討する。東南アジア諸国では、かなりの人がインターネットにアクセスできる時代に突入しており、生成AIの導入もあり、社会を大きく変容させはじめている。この授業では、こうしたデジタル化の政治社会的インパクトを理論的分析と実証分析の両面から学ぶことにしたい。そうすることで、フィールドワーク重視の研究においても、デジタル化のインパクトを考察することが不可避であることが明らかになる。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<p>東南アジアにおけるデジタル化の政治社会的インパクトを理解することができる。その分析アプローチを学ぶことができる。</p>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>第1回と第2回は、東南アジアにおけるデジタル化の政治社会的インパクトに関するイントロダクションを行う。第3回から第6回までは、デジタル化に関する理論的文献を読んでいく。第7回から第10回までは事例研究を読み込む。第11回から第14回は個人発表をしてもらう。第15回はフィードバック。</p>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
出席30%。発表70%					
<b>[教科書]</b>					
<p>シヨシャナ・ズボフ 『監視資本主義』（東洋経済新報社、2021）  ニコール・パーロース 『サイバー戦争（上）（下）』（早川書房、2022）  クリス・ペイル 『ソーシャル・メディア・プリズム』（みすず書房、2022）</p>					
<b>[参考書等]</b>					
<p>（参考書）  Janet Steele 『Malaysiakini and the Power of Independent Media in Malaysia』（NUS Press, 2023）  Aim Sinpeng 『Opposing Democracy in the Digital Age: The Yellow Shirts in Thailand』（Univ of Michigan Pr, 2021）  Ross Tapsell 『Deepening the Understanding of Social Media 's Impact in Southeast Asia』（ISEAS, 2021）  Maria Ressa 『How to Stand Up to a Dictator』（Harper, 2022）</p>					
----- 地域相関論 (2)へ続く -----					

地域相関論 (2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

予習・復習用の文献リストはイントロダクションで紹介する。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング	G-AAA01 51207 LB31				
授業科目名 <英訳>	地域相関論 State and Society II (Gender and Society)	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 助教 師田 史子		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>本授業では、東南アジアの諸現象を分析する視角としての人類学的理論や文化理論について検討する。ジェンダー、信仰、物質文化など、テーマは受講者に応じて柔軟に対応する。東南アジアに限定しない、ミクロに丹念に練り上げられた民族誌の読解とその応用を通じて、受講者自らが遭遇した調査地の出来事を言語化し、地域理解に資する議論へと昇華する力を養うことを目的とする。授業は講義と受講者の発表との両方によって進める。受講者の構成により、内容や実施形態を変更する場合もある。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<p>1) 文化人類学が蓄積してきた諸理論を理解し、自らの研究に応用する力を身に着ける  2) 民族誌の購読を通じて、当該地域について理解し、受講者各自の研究・調査において諸現象を分析する基盤とする。</p>					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>授業は基本的に文献購読の形式で進める。  扱うテーマは初回授業の際に受講者からの希望を聞いて決定する。</p> <p>授業の説明・テーマ決定  ～ 民族誌 / 人類学的文献の購読 (1)  ～ 民族誌 / 人類学的文献の購読 (2)  ～ 民族誌 / 人類学的文献の購読 (3)  授業の振り返り、まとめ</p>					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
<p><b>【評価方法】</b>  平常点（授業での議論への参加）：70%、発表：30%</p>					
----- 地域相関論 (2)へ続く -----					

地域相関論 (2)

**[教科書]**

授業中に指示する

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

受講者は、毎回の授業のテキストをあらかじめ読んで、議論に参加することを求める。また、テキストを読んで発表し、議論を先導する役を(受講者数に応じて)分担で受け持つ。

**(その他(オフィスアワー等))**

面談時間は随時相談に応じる。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA01 51209 LJ31				
授業科目名 <英訳>	宗教史論 Religious History	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 山口 元樹		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月3	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
<p>本講義では、研究書の講読をとおして19世紀末から20世紀半ばにかけての東南アジアのイスラーム運動について考察する。この時期の東南アジアの政治運動については、かつては世俗的ナショナリズムが議論の中心であったが、近年の研究ではイスラーム運動の意義の再検討が進んでいる。その一つの要因は、現代におけるイスラーム運動を理解する上で、過去との連続性・非連続性を検証することが不可欠なためである。本講義では、広域的なイスラーム世界との関係や地域の歴史的な背景の説明も交えながら論じていく。</p>					
<b>【到達目標】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代東南アジアにおけるイスラームの歴史的展開について、基礎的な知識を身に着けるとともに、これまでの研究の論点を理解する。</li> <li>・先行研究の方法・議論を批判的に検討することを通し、自らの研究の進め方や論の構成の仕方について学ぶ。</li> </ul>					
<b>【授業計画と内容】</b>					
<p>第1回 ガイダンス、報告順番の決定  第2回 東南アジアのイスラーム史に関する概説  第3回～第15回 東南アジアのイスラームに関する文献の講読  ただし、履修者の人数に応じて第14回と第15回を研究内容の発表にする場合がある。</p>					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
発表（30％）、平常点（出席、議論への参加）（70％）					
<b>【教科書】</b>					
授業中に指示する					
<b>【参考書等】</b>					
（参考書） 授業中に紹介する					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
テキストについては担当以外の回もあらかじめ読んでおき議論に参加すること。テキスト以外に紹介する参考文献も読んでおくこと。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィス・アワーは特に定めていません。在室時はいつ訪ねてきても構いません。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-AAA01 51251 SB31					
授業科目名 <英訳>	地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development I			担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	片岡 樹
					アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	伊藤 正子
				東南アジア地域研究研究所	教授	岡本 正明	
				アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	山口 元樹	
				アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	師田 史子	
配当学年	1,2回生		単位数	3	開講年度・開講期	2024・前期	
曜時限	水3		授業形態	ゼミナール(対面授業科目)		使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】							
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するための、基礎的な問題とアプローチの方法に関する演習をおこなう。							
【到達目標】							
博士予備論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。							
【授業計画と内容】							
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。							
【履修要件】							
博士予備論文審査にまだ合格していない者。							
【成績評価の方法・観点】							
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。							
【教科書】							
使用しない							
【参考書等】							
(参考書) 授業中に紹介する							
【授業外学修(予習・復習)等】							
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。							
(その他(オフィスアワー等))							
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング		G-AAA01 51252 SB31					
授業科目名 <英訳>	地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development II			担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	片岡 樹
					アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	伊藤 正子
				東南アジア地域研究研究所	教授	岡本 正明	
				アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	山口 元樹	
				アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	師田 史子	
配当学年	1,2回生		単位数	3	開講年度・開講期	2024・後期	
曜時限	水3		授業形態	ゼミナール(対面授業科目)		使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】							
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。							
【到達目標】							
博士予備論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。							
【授業計画と内容】							
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。							
【履修要件】							
博士予備論文審査にまだ合格していない者。							
【成績評価の方法・観点】							
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。							
【教科書】							
使用しない							
【参考書等】							
(参考書) 授業中に紹介する							
【授業外学修(予習・復習)等】							
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。							
(その他(オフィスアワー等))							
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング		G-AAA01 71253 SB31					
授業科目名 <英訳>	地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development III			担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	片岡 樹
					アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	伊藤 正子
				東南アジア地域研究研究所	教授	岡本 正明	
				アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	山口 元樹	
				アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	師田 史子	
配当学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・前期		
曜時限	水5	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語		
<b>【授業の概要・目的】</b>							
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。							
<b>【到達目標】</b>							
博士論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。							
<b>【授業計画と内容】</b>							
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。							
<b>【履修要件】</b>							
博士予備論文の審査に合格した者。							
<b>【成績評価の方法・観点】</b>							
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。							
<b>【教科書】</b>							
使用しない							
<b>【参考書等】</b>							
(参考書) 授業中に紹介する							
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>							
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。							
(その他(オフィスアワー等))							
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング		G-AAA01 71254 SB31					
授業科目名 <英訳>	地域変動論研究演習 Research Seminar on Society and Development IV			担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	片岡 樹
					アジア・アフリカ地域研究研究科	教授	伊藤 正子
				東南アジア地域研究研究所	教授	岡本 正明	
				アジア・アフリカ地域研究研究科	准教授	山口 元樹	
				アジア・アフリカ地域研究研究科	助教	師田 史子	
配当学年	3-5回生		単位数	3	開講年度・開講期	2024・後期	
曜時限	水5		授業形態	ゼミナール(対面授業科目)		使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>							
東南アジア地域の発展と変動の諸側面ならびに方向性をマクロ、ミクロの両視点から総合的に考察するため、この分野に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。							
<b>【到達目標】</b>							
博士論文を完成させる上で、学問的に適切な論を組み立てることができるようになる。 自分の研究内容を適切に発表できる技量を養う。 質疑応答を通じ、学術的な質問、応答の技量を養う。							
<b>【授業計画と内容】</b>							
受講生が、順番に、毎回2名程度、各自の研究の構想、進捗状況、成果などについて報告する。報告を受けて、参加者全員で議論を重ねることによって、東南アジア地域への理解を深める。 第1回目の開講時に報告順を決定する。 最終回には、まとめ(総括)を行う。							
<b>【履修要件】</b>							
博士予備論文の審査に合格した者。							
<b>【成績評価の方法・観点】</b>							
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによる。							
<b>【教科書】</b>							
使用しない							
<b>【参考書等】</b>							
(参考書) 授業中に紹介する							
<b>【授業外学修(予習・復習)等】</b>							
研究発表を行うのが単位認定の前提である。指導教員や先輩等と相談の上、きちんと準備することが求められる。							
(その他(オフィスアワー等))							
質問等があれば適宜担当教員に相談されたい。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング	G-AAA01 51309 LJ31				
授業科目名 <英訳>	東南アジア史論 History of Southeast Asia	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 小泉 順子		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	金2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
東南アジア史のヒストリオグラフィーをめぐる諸問題を考察する。歴史叙述の下敷きとなるメタナラティブを自覚的に問題化する諸論考を検討しながら、新しい歴史像の模索を試みる。					
<b>[到達目標]</b>					
東南アジア研究の成り立ちを理解し、自らの研究も含めて歴史の文脈に位置づけて分析する視角と手法を習得する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
近年、東南アジア史研究において、これまでの歴史叙述の正当性に対する疑問が提起されている。歴史叙述を検討するにあたり提起されてきた方法論をめぐる理論的議論をたどりつつ、今日東南アジア史研究において古典と目される作品をとりあげて、研究史上の位置づけ・時代的文脈を検討する。受講者は、東南アジア史一般のみならず、個々の研究テーマに応じて、それぞれ研究史上において重要とみなされている作品を、研究が生み出された時代的文脈に位置づけて歴史叙述の観点から分析・紹介し、自らの研究を位置づける作業を行なう。					
(1) イントロダクション 授業の目的と内容の概括・ガイダンス 以下について文献輪読により検討する。また受講者の関心に応じて適宜テーマを調整する。					
(2) 「東南アジア」の歴史的成り立ち					
(3) 「地域研究」と冷戦					
(4) 東南アジア研究と華僑華人研究					
(5) 植民地主義と自律史					
(6) 前近代と近代					
(7) 社会科学的手法					
(8) 歴史と記憶					
<b>[履修要件]</b>					
歴史研究の方法論、ヒストリオグラフィー、研究史をめぐる諸問題に関心があることが望ましい。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
出席、発表、討論への参加、およびレポートによる。					
<b>[教科書]</b>					
授業中に指示する					
<b>[参考書等]</b>					
(参考書) 授業中に紹介する					
----- 東南アジア史論(2)へ続く -----					



東南アジア史論(2)

---

**[授業外学修（予習・復習）等]**

毎回事前に配布する文献に目を通すこと。

**（その他（オフィスアワー等））**

主体的な授業参加を希望します。  
オフィス・アワーは特に定めません。随時メール等でご連絡ください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA01 51314 LJ31				
授業科目名 <英訳>	水循環・風土論 Hydrology and Climatology	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 甲山 治		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火3	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
水文学は地球上の水の動態や分布，水質などを対象とした学問であり，水循環や水資源，気候および水災害，環境の持続性なども取り扱う．本授業では，アジアモンスーン地域を中心に，水循環過程や人間活動と水循環の相互作用に関する講義を行う．					
<b>【到達目標】</b>					
水循環や風土に関する重要な研究課題について，自主的に対応できる能力を養う．					
<b>【授業計画と内容】</b>					
第一週 オリエンテーション 第二週から十四週 講義 第十五週 まとめ					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
レポートの内容と、毎回の授業への出欠と討論への参加度などによる。					
<b>【教科書】</b>					
使用しない					
<b>【参考書等】</b>					
（参考書） 授業中に紹介する					
（関連URL）					
<a href="https://onlinemovie.cseas.kyoto-u.ac.jp/ja/movie_kozan/">https://onlinemovie.cseas.kyoto-u.ac.jp/ja/movie_kozan/</a> (研究紹介として「インドネシアの大規模火災、その問題解決に挑む」という動画を公開しています。)					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
授業前に予習すべきこととしては，受講生が興味を持つ地域における水問題や気象条件を調べておくこと．					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については，KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA01 51317 LJ31				
授業科目名 <英訳>	比較農村社会論 Comparative Studies of Rural Societies	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 小林 知		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	火4	授業形態	(対面授業科目)		使用言語 日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
東南アジア大陸部の社会を事例に、周囲の自然環境や比較的狭い範囲の社会経済的条件に影響を受けて形成された伝統的な地域コミュニティの特徴と、それが近代化とグローバル化のなかで経験してきた変容の過程について、文化人類学を方法とした地域研究の視点から論じます。さらに、特定の地域に見いだされた個別の特徴・問題を、通地的な比較の俎上に載せて捉えた上で、現代的な社会課題（開発、人口減少、高齢化など）と重ねて研究を進めるための方法論を論じます。今年度は特に、東南アジア大陸部の社会組織と生業、宗教（上座仏教）を事例として取り上げます。					
<b>【到達目標】</b>					
世界の諸地域に暮らす人々の生活を、地域の個性と世界大の普遍的課題の双方に位置づけて説明できるようになる。フィールドワークにもとづいて地域コミュニティの現状と将来像に関する諸課題を考えてゆくための能力を養う。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
今年度は、東南アジア大陸部の社会組織と生業、宗教の特徴と、近年におけるその変容を事例として授業を進めます。第1週は、地域研究の方法論について論じます。第2～4週にかけては課題の探求を進める上で鍵となる研究の枠組みについて、第5～7週にかけてはフィールドで得たデータにもとづく講義を行います。第8～13週は、課題に関係したペーパーを精読して内容について議論します。受講生には、資料の読解にもとづく発表の準備を求めます。第14～15週は、フィールドワークの方法と、それを民族誌的記述に練り上げてゆくプロセスについて議論します。					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
平常点と年度末のレポート。平常点は、授業への出席と発言、およびその都度提示する課題に関する発表への評価からなります。					
<b>【教科書】</b>					
授業中に指示する					
<b>【参考書等】</b>					
(参考書) 授業中に紹介する					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
課題として授業中に指定する書籍と論文については、事前に読み、スライド数枚からなる発表の準備をして、授業に臨むようにしてください。					
(その他（オフィスアワー等）)					
授業外での面会については、事前にメール等で連絡をとるようにしてください。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA01 81318 LJ31				
授業科目名 <英訳>	地域研究プロジェクト・デザイン Area Studies Project Designing	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
受講生それぞれの研究プロジェクト設計を補助することを目的とする。具体的には、博士論文予備論のためのフィールドワークや文献調査を事前に自らデザインすることを目指す。授業は日本語で行い、主に一回生を対象とする。					
<b>【到達目標】</b>					
フィールドワーク（文献調査を含む）で行うべきことを事前にイメージトレーニングする。自分の研究の目的を明確にし、先行研究のなかでの立ち位置を明確にする。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
以下に記したようなトピックに関するホームワークの提出とその相互参照に基づく受講者参加型授業を進める。調査前のリサーチ・デザインならびに調査後データの可視化と論文構成のための力を養うことを主眼とし、博士予備論文執筆のための基礎的作業とする。奨学金情報の整理、設問分析、プロポーザル準備や文献探索方法など実効性のあるトレーニングも試みたい。					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研究タイムテーブルの作成</li> <li>2 - 3 研究テーマの明確化と文章化</li> <li>4 - 5 分析単位（空間的・歴史的枠組）の設定と文章化</li> <li>6 調査デザイン/論文構成に関するコンセプト・マップの作成</li> <li>7 方法論</li> <li>8 調査方法</li> <li>9 - 10 研究史レビュー</li> <li>11 リーディング・リスト設計と読解（地域）</li> <li>12 リーディング・リスト設計と読解（テーマ）</li> <li>13 文献探索方法</li> <li>14 奨学金申請のためのプロポーザル・ライティングなど</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
<b>【履修要件】</b>					
地域、分野、トピックを問わない。					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一連のホームワークの提出と授業への積極的な参加</li> <li>・期末提出物としてのリーディング・リスト（地域とテーマ）</li> </ul>					
<b>【教科書】</b>					
授業中に指示する 適宜指示する。					
----- 地域研究プロジェクト・デザイン (2)へ続く -----					

地域研究プロジェクト・デザイン (2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
適宜指示する。

**[授業外学修(予習・復習)等]**

自分のホームワークを受講生人数分コピーし配布する。

**(その他(オフィスアワー等))**

アポイントメントによるオフィスアワー

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA01 81319 LJ31				
授業科目名 <英訳>	紛争と平和 Conflict and Peace in Southeast Asia	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	金4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
【授業の概要・目的】					
<p>今年度のテーマ：きなくさいアジア  この授業では暴力的な政治紛争について検討します。1990年代以降、国家間戦争ではない、国家内での暴力的な政治紛争に関する社会科学的な研究が進みました。紛争予防や、紛争後の平和構築についても研究、実務、両面でさまざまな知見が蓄積されています。最近ではデータの整備も進んでいます。この授業では、アジアを事例に講義と文献購読を組み合わせながら、特定のテーマについて教員、受講生全員が議論をします。なお、アジアではない国々を研究対象とする学生が含まれる場合は、受講生の関心に合わせて柔軟に授業内容を変更します。最終的には、受講生が自身の関心のある紛争を2つ以上選んで、比較をするレポートを提出してもらいます。</p>					
【到達目標】					
<p>到達目標は3つあります。ひとつに、紛争研究の基礎を学ぶこと。つぎに、固有性を重視する地域研究による紛争分析の事例を知ること。3つ目に普遍的なアプローチと個別具体的な事例をいかに組み合わせながら紛争を分析すればよいかを考えること。</p>					
【授業計画と内容】					
<p>第1回 オリエンテーション  第2・3回 紛争とは何か  第4・5回 紛争研究の発展  第6・7回 データで分析する紛争  第8・9回 歴史的に分析する紛争  第10・11回 フィールドワークで分析する紛争  第12・13回 比較で分析する紛争  第14・15回 受講生最終報告</p>					
【履修要件】					
特になし					
【成績評価の方法・観点】					
<p>出席点：10%  授業での報告：30%</p>					
----- 紛争と平和(2)へ続く -----					

## 紛争と平和(2)

授業での討論参加：30%  
最終レポート：30%

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

予備知識は必要ないが、事前に課題となる文献を報告者以外も読んでくる必要があるので、授業準備に一定の時間を割かなければならない。

### (その他(オフィスアワー等))

教員との面接を希望するものはアポイントをとること。メールアドレスと研究室の内線番号は以下の通り。

nakayosi@cseas.kyoto-u.ac.jp  
7837

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA01 51321 LJ31				
授業科目名 <英訳>	東南アジアの農業・農村 Nature and Agriculture in Southeast Asia	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	月5	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>本講義では、東南アジアの農業、農村、農民を理解するために、生態史の観点から考えます。東南アジアの自然のメカニズムとその変化（自然史）を理解するだけでなく、東南アジアの人たちの自然との関係の歴史を学びます。東南アジア生態史研究における基本的な考え方と関連した研究手法について学んだのち、受講生の実際の研究課題を題材にしながら、自然史と人の行為が織りなす歴史について学びます。</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態史理解のための基礎的な考え方と研究手法を身につける</li> <li>・人間社会と自然との関係を学ぶ</li> <li>・農村でのフィールドワークの手法を学ぶ</li> <li>・分析と総合のための思考方法を学ぶ</li> <li>・既存研究を活用するための多様な理解力を養う</li> </ul>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2～4. 生態史研究の基本的な考え方</li> <li>5～7. 東南アジアの生態史</li> <li>8～10. 文明における生態環境の役割</li> <li>11～14. 近代以降における東南アジアの農業・農村の変容（受講生の課題に即しながら）</li> <li>15. 総合討論</li> </ol>					
<b>[履修要件]</b>					
特になし					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
出席、発表、議論への積極的参加等に基づき、総合的に評価する。					
<b>[教科書]</b>					
授業中に指示する					
----- 東南アジアの農業・農村(2)へ続く -----					



## 東南アジアの農業・農村(2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業中に指示する

### (その他(オフィスアワー等))

講義に関する質問は、メールや研究室で随時対応する。  
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。  
  
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA01 81322 LJ31				
授業科目名 <英訳>	東南アジア経済論 I Economic Approach to Southeast Asia I	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水1	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
東アジア・東南アジア経済に関する研究を進めるにあたって、実証・理論の両面における経済学の方法論をどのように応用できるかを講義し、考える。そのための基本となる知識や方法論を紹介し、また分野の広がりを理解できるような研究展望を提供する。					
<b>【到達目標】</b>					
受講者が東・東南アジアに関するそれぞれのテーマの研究に取り組む際に、経済学的な観点と方法論を主体的に加味して考察が進められるような基本知識の習得を目的とする。受講者の希望により計量経済学的な統計分析の基礎講義も行う。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
講義は以下の3つのモジュールからなる。 0．イントロダクション（1回） 1．アジアの経済成長とマクロ経済知識の基礎（講義2回、輪読1回） 成長理論とアジア経済の現実 2．アジア経済と企業・金融制度（講義3回、輪読3回） 金融・企業システム、所有、企業統治 3．経済制度論とアジア経済（講義1回、輪読4回） 経済発展と政治経済制度に関する比較研究分野の論文ないしテキストの輪読・討論  必要と時間的余裕に応じて、計量経済学的な実証分析の基礎講義と統計パッケージソフトの利用法の指南も行う。					
<b>【履修要件】</b>					
特になし					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
指定論文討議における貢献20%、3回程度のショートペーパー45%、タームペーパー35%の合計点で評価する。					
<b>【教科書】</b>					
全体としては特になし。Reading Assignmentをトピックごと課す。					
<b>【参考書等】</b>					
（参考書） 講義においてトピックごとに示す。					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
指定された論文を事前に読み込んでくることが求められる。論文はトピックごとに適宜指示する。 （その他（オフィスアワー等）） 講義内で適宜指示します。  オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA01 81323 LE31				
授業科目名 <英訳>	東南アジア経済論 II Economic Approach to Southeast Asia II	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 准教授 町北 朋洋		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	火4	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
<p>This course studies economics of Southeast Asia through the lens from economic development. This course studies quantitative analytical frameworks and use historical case studies to examine the role of geographic and institutional factors such as incentives, trade, community development, skills, migration, agglomeration of economic activities in understanding the performance of regions in emerging/developing vs developed economies and comparative institutional analysis of cities. We may cover related and recommended topics analyzing regional differences through geography and institutions answering questions such as: How urbanization relates to economic development? How institutional difference has persistent effects on economic development?</p>					
<b>[到達目標]</b>					
<p>Through active participation in discussions and presentations of assigned papers, students will absorb the research designs of the most up-to-date study results, and each student will be involved in their own research thesis. Students will study the basic mechanisms of industrial development and prior empirical research, acquiring the basic knowledge that is needed to independently understand the latest research results.</p>					
<b>[授業計画と内容]</b>					
<p>We do not use a textbook. Lectures and discussions. Each class meeting will open with a presentation by the instructor, followed by discussion of the assigned textbook. Active class participation will thus form a major component of one 's overall grade for the course. Students submit a term paper on a topic of interest by the end of the semester.</p> <p>Class 1-2: Introduction  Class 3-8: Economic Geography, Trade, and Institutions  Class 9-14: Firms and Industrial Development  Class 15: Feedback</p> <p>Ray, Debraj. 1998. Development Economics. Princeton University Press.</p> <p>Samphantharak, Krislert. 2021. Economic Development of Southeast Asia. Unpublished manuscript.</p> <p>Reid, Anthony. 2015. A History of Southeast Asia: Critical Crossroads (Blackwell History of the World), Wiley-Blackwell.</p> <p>Reid, Anthony. 1990. Southeast Asia in the Age of Commerce, 1450-1680 Volume One: The Lands below the Winds. Yale University Press.</p> <p>Reid, Anthony. 1995. Southeast Asia in the Age of Commerce, 1450-1680 Volume 2, Expansion and Crisis. Yale University Press.</p>					
----- 東南アジア経済論 II (2)へ続く -----					

## 東南アジア経済論 II (2)

Lieberman, Victor. 2003. Strange Parallels Southeast Asia in Global Context, c.800-1830, Volume 1: Integration on the Mainland. Cambridge University Press.

Lieberman, Victor. 2009. Strange Parallels Southeast Asia in Global Context, c.800-1830, Volume 2: Mainland Mirrors: Europe, Japan, China, South Asia, and the Islands. Cambridge University Press.

### 【履修要件】

Without imposing a strict requirement, I assume familiarity with the concepts taught in basic undergraduate-level Statistics. This is an economics class that employs quantitative reasoning. Students should read the papers that are assigned for each upcoming class and participate in class discussions.

### 【成績評価の方法・観点】

Grades will be based on attendance/participation. Final Grading will be based on a report and attendance. Active and constructive participation during the class discussions will influence your grade as well.

### 【教科書】

授業中に指示する

Instructions will be provided during class.

### 【参考書等】

(参考書)

Others, all of the required readings are available on electronic reserve via Panda.

### 【授業外学修（予習・復習）等】

Supplementary to course content, students are also encouraged to pursue self-study on statistical methods, qualitative research methods, and microeconomics in order to better understand related papers.

### （その他（オフィスアワー等））

Tuesdays 16:30-17:30, and appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング	G-AAA01 81325 LE31				
授業科目名 <英訳>	東南アジアにおけるイスラームの歴史 History of Islam in Southeast Asia	担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 FEENER, Michael		
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期集中
曜時限	11月実施	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
This course explores historical dynamics of Islamization and vernacularization in Southeast Asia. Major topics to be covered include the rise of regional sultanates, the conversion of local populations, the development of vernacular Muslim cultural expressions, and the impact of European colonialism on Muslim communities in the region.					
<b>[到達目標]</b>					
Through this course of directed readings and active class discussion, students will familiarize themselves with the historical formation and development of Muslim societies of Southeast Asia. This can provide an important foundation for the further study and understanding of modern / contemporary developments in the region, as well as perspective on the way in which distinctive local cultures formed across the archipelago in dynamic interaction with other traditions originating in East Asia, South Asia, the Middle East, and Europe.					
<b>[授業計画と内容]</b>					
Lecture 1: 5 November General Introduction to this course, and to the study of Muslim history Requirements and expectations: What will be required of you?					
Lectures 2-3: 8 November 2. Islamization Marshall Hodgson (1974), <i>The Venture of Islam: Conscience and History in a World Civilization</i> . University of Chicago Press, II: 532-551. Richard Eaton (2003). <i>The Rise of Islam on the Bengal Frontier</i> . Berkeley: University of California Press, 268-303. Devin DeWeese (1994), <i>Islamization and Native Religion in the Golden Horde</i> . University Park, PA: Penn State Press, 17-66. Torsten Tschacher, “ Circulating Islam: Understanding Convergence and Divergence in the Islamic Traditions of Ma ’ bar and Nusantara, ” in: R. Michael Feener & Terenjit Sevea, Eds. <i>Islamic Connections: Muslim Societies in South and Southeast Asia</i> (Singapore: ISEAS Press, 2009), 48-67.					
3. Vernacularization Finbarr Flood (2009). <i>Objects of Translation: Material Culture and Medieval ‘ Hindu-Muslim ’ Encounter</i> . Princeton University Press, 1-14. Zvi Ben-Dor Benite (2005). “ The Han Kitab Authors and the Chinese Islamic School, ” <i>The Dao of Muhammad: A Cultural History of Muslims in Late Imperial China</i> . Harvard University Press, 115-162. Johan Elverskog (2013). <i>Buddhism and Islam on the Silk Road</i> . Singapore: ISEAS Press, 57-116. Amitav Acharya (2013). “ Indianization, Localization, or Convergence, ” in: <i>Civilizations in Embrace: The Spread of Ideas and the Transformation of Power #8211 India and Southeast Asia in the Classical Age</i> . Singapore: ISEAS Press. 19-42.					
----- 東南アジアにおけるイスラームの歴史(2)へ続く -----					

Lectures 4-5: 11 November

4. Early Muslim Maritime Networks

Geoff Wade (2010). "Early Muslim Expansion in Southeast Asia, eighth to fifteenth centuries," *New Cambridge History of Islam*, volume 3, 366-408.

Hermann Kulke (2009). "The Naval Expeditions of the Cholas in the Context of Asian History," in: Hermann Kulke, K. Kesavapany & Vijay Sakhuja, Eds. *Nagapattinam to Suvarnadwipa: Reflections on the Chola Naval Expeditions to Southeast Asia*. Singapore: ISEAS Press, pp. 1-19.

Angela Schottenhammer (2019), "China's Increasing Integration into the Indian Ocean World until Song Times: Sea Routes, Connections, Trades," in: *Early Global Interconnectivity across the Indian Ocean World, Volume I #8211 Commercial Structures and Exchanges* Palgrave MacMillan, pp. 21-52.

Eivind Heldaas Seland (2019), "Religion and Early Trade in the Western Indian Ocean: Ideology and Knowledge Exchanges across the Indian Ocean World," in: Angela Schottenhammer, Ed. *Early Global Interconnectivity across the Indian Ocean World, Volume II #8211 Exchange of Ideas, Religions, and Technologies* Palgrave MacMillan, pp. 69-83.

5. First Formations of Local Muslim Cultures

Anthony Reid (1993). "A Religious Revolution," *Southeast Asia in the Age of Commerce, 1450-1680 #8211 Volume Two: Expansion and Crisis*. Yale University Press. 132-201.

Elizabeth Lambourn (2008). "Tombstones, texts and typologies - seeing sources for the early history of Islam in Southeast Asia," *Journal of the Economic and Social History of the Orient*, 51.2: 252-286.

R. Michael Feener, et al. (2021). "Islamization and the Formation of Vernacular Tradition in 15th-Century Northern Sumatra," P. Daly, E.E. McKinnon, L. Lum, Ardiansyah, Nizamuddin, N. Ismail, Y.S. Tai, J. Rahardjo, & K. Sieh *Indonesia and the Malay World*: <https://doi.org/10.1080/13639811.2021.1873564>

Denys Lombard & Claudine Salmon (1994). "Islam and Chineseness," *Indonesia* 57: 115-132. <https://ecommons.cornell.edu/handle/1813/54025>

Lectures 6-7: 12 November

6. Accounts of Islamization

Russell Jones (1979). "Ten Conversion Myths from Indonesia," in: Nehemia Levtzion, Ed. *Conversion to Islam*. New York: Holmes & Meier Publishers, 129-58.

G.W.J. Drewes (1968). "New Light on the Coming of Islam to Indonesia," *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde* 124.4: 433-459 [https://brill.com/view/journals/bki/124/4/article-p433\\_1.xml?language=en](https://brill.com/view/journals/bki/124/4/article-p433_1.xml?language=en)

A.H. Johns (1993). "Islamization in Southeast Asia: Reflections and Reconsiderations with Special Reference to the Role of Sufism." *Southeast Asian Studies (Kyoto)* 31(1): 43-61.

Pierre-Yves Manguin (1985), "The Introduction of Islam to Champa," *Journal of the Malaysian Branch of the Royal Asiatic Society* LVIII.i, pp. 1-28.

7. Trade, Sufism and military expansion

Roderich Ptak, (1992). "The Northern Trade Route to the Spice Islands: South China Sea #8211 Sulu Zone #8211 North Moluccas, 14th to early 16th century)," *Archipel* 43: 27-56 [https://www.persee.fr/doc/arch\\_0044-8613\\_1992\\_num\\_43\\_1\\_2804](https://www.persee.fr/doc/arch_0044-8613_1992_num_43_1_2804)

Michael Hitchcock (1996). *Islam and Identity in Eastern Indonesia*. University of Hull Press, 38-56.

J. Noorduyn (1987). "Makassar and the Islamization of Bima," *Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde* 143.3: 312-342 [https://brill.com/view/journals/bki/143/2-3/article-p312\\_6.xml?rskey=](https://brill.com/view/journals/bki/143/2-3/article-p312_6.xml?rskey=)

### 東南アジアにおけるイスラームの歴史(3)

FGvblb&result=1

Simon C. Kemper (2018). "The White Heron Called by the Muezzin: Shrines, Sufis and Warlords in Early Modern Java," in: Joshua Gedacht & R. Michael Feener, Eds. *Challenging Cosmopolitanism: Coercion, Mobility, and Displacement in Islamic Asia*. Edinburgh University Press, pp. 81-120.

Lectures 8-9: 15 November

#### 8. Islamic institutional formations

M.C. Ricklefs (2007). "The Javanese Islamic Legacy to c. 1830: The Mystic Synthesis," *Polarising Javanese Society: Islamic and other visions (c. 1830-1930)*. Singapore: NUS Press. 1-11.

Thomas Gibson (2007). *Islamic Narrative and Authority in Southeast Asia from the 16th to the 21st Century*. New York: Palgrave MacMillan, 27-54.

Martin van Bruinessen, (1995). "Shari'a Court, Tarekat and Pesantren: Religious Institutions in the Banten Sultanate." *Archipel*. 50: 165-200.

Ismail Fajrie Alatas (2019), *Buddhist and Islamic Networks in Southern Asia: Comparative Perspectives*, in: R. Michael Feener & Anne M. Blackburn, Eds. Honolulu: University of Hawaii Press, pp. 20-48:[https://www.academia.edu/38538511/Buddhist\\_and\\_Islamic\\_Orders\\_in\\_Southern\\_Asia\\_Comparative\\_Perspectives](https://www.academia.edu/38538511/Buddhist_and_Islamic_Orders_in_Southern_Asia_Comparative_Perspectives)

#### 9. Courts and cultures of Southeast Asian sultanates

Anthony Reid (1997). "Islam and the State in Seventeenth-century Southeast Asia." *Proceedings of the International Seminar on Islamic Civilization in the Malay World*. T. Abdullah. Istanbul: IRCICA. 67-84.

Takeshi Ito (1984). *The World of the Adat Aceh: A Historical Study of the Sultanate of Aceh*. Australian National University dissertation, pp. 206-272 <http://acehbooks.org/search/detail/4953?language=en>

John Miksic (2005). "The Art of Cirebon and the Image of the Ascetic in Early Javanese Islam," in: *Crescent Moon: Islamic Art and Civilisation in Southeast Asia* (Ed. James Stevenson Bennet). Adelaide: Art Gallery of South Australia, 121-138.

Ann Kumar (1980). "Javanese Court Society and Politics in the Late Eighteenth Century: The Record of a Lady Soldier, Part I: The Religious, Social, and Economic Life of the Court," *Indonesia* 29: 1-46: <https://ecommons.cornell.edu/handle/1813/53694>

Lectures 10-11: 18 November

#### 10. Muslim material cultures

John Kieschnick (2003). *The Impact of Buddhism on Chinese Material Culture*. Princeton University Press. 1-23.

Elizabeth Lambourn (2004). "The formation of the Batu Aceh Tradition in Fifteenth Century Samudera-Pasai," *Indonesia and the Malay World* 32(93): 211-248.

Nancy Florida (1995). *Writing the Past, Inscripting the Future: History as Prophecy in Colonial Java*. Durham, NC: Duke University Press, 319-51.

C. van Dijk (2007).#8232 "The Changing Contour of Mosques," In: Nas, P.J.M. (Ed.), *The Past in the Present. Architecture in Indonesia* (Rotterdam & Leiden: NAI Publishers and KITLV Press), 45-66.

#### 11. Literary Traditions

Aditya Behl (2012). *Love's Subtle Magic: An Indian Islamic Literary Tradition, 1379-1545*. Oxford University Press, 1-29.

A.H. Johns (1996). "In the Language of the Divine: The Contribution of Arabic," in: *Illuminations: The Writing Traditions of Indonesia: Featuring Manuscripts from the National Library of Indonesia* (Ed. Ann

## 東南アジアにおけるイスラームの歴史(4)

---

Kumar). Jakarta: Perpustakaan Nasional, 33-48.

Ricklefs, M. C. (1997). "Islam and the Reign of Pakubuwana II, 1726-49." In: *Islam- Essays in Scripture, Thought and Society: A Festschrift in Honour of Anthony H. Johns* (P. Riddell & T. Street, Eds.). Leiden: E.J. Brill. 237-252.

Cummings, W. (2001). "Scripting Islamization: Arabic Texts in Early Modern Makassar." *Ethnohistory* 48.4: 559-86.

Lectures 12-13: 19 November

### 12. Ritual and Pilgrimage

Eric Tagliacozzo, *The Longest Journey: Southeast Asians and the Pilgrimage to Mecca* (Oxford University Press, 2013), 83-106.

Claude Guillot (2002). "The Tembayat Hill: Clergy and Royal Power in Central Java from the 15th to the 17th Century," in: *The Potent Dead: Ancestors, Saints, and Heroes in Contemporary Indonesia* (Henri Chambert-Loir & Anthony Reid, Eds.). Crows Nest, NSW: Allen & Unwin, 141-159.

Julian Millie (2009), *Splashed by the Saint: Ritual Reading and Islamic Sanctity in West Java*. Leiden: KITLV, 21-48.

Laurie Sears (1996) *Shadows of Empire: Colonial Discourses and Javanese Tales*. Durham, NC: Duke University Press, 34-74.

### 13. Itineraries and institutions of the ulama

Azyumardi Azra (2004). *The Origins of Islamic Reformism in Southeast Asia*. Allen & Unwin. 70-86.

Martin van Bruinessen (1994). "Pesantren and Kitab Kuning: Continuity and Change in a Tradition of Religious Learning," in: Wolfgang Marschall (ed.), *Texts from the islands. Oral and written traditions of Indonesia and the Malay world* [Ethnologica Bernica, 4]. Berne: University of Berne, 121-145.

Peter Riddell (1997). "Religious links between Hadhramaut and the Malay-Indonesian world, c. 1850 to c. 1950," in Ulrike Freitag and William Clarence-Smith (eds.), *Hadhrami traders, scholars, and statesmen in the Indian Ocean, 1750s-1960s*. Leiden: E.J. Brill. 217-30.

Francis Bradley *Forging Islamic Power and Place: The Legacy of Shaykh Da'ud bin 'Abd Allah al-Fatani in Mecca and Southeast Asia*. University of Hawaii Press, 119-137.

Lectures 14-15: 22 November

### 14. Rebellion, religious reform, and collaboration

Peter Carey (2008). *The Power of Prophecy: Prince Dipanagara and the end of the old order in Java, 1785-1855*. KITLV Press. 605-656.

Christine Dobbin (1974). "Islamic Revivalism in Minangkabau at the Turn of the Nineteenth Century." *Modern Asian Studies* 8(3): 319-345.

Sartono Kartodirdjo (1966). *The Peasant's Revolt of Banten in 1888*. The Hague: Martinus Nijhoff, 140-175.

Nico Kaptein (2009). "Arabophobia and Tarekat: How Sayyid Uthman became Advisor to the Netherlands Colonial Administration," in: *The Hadhrami Diaspora in Southeast Asia* (Ahmad Ibrahim Abushouk & Hassan Ahmad Ibrahim, Eds.). Leiden: Brill, 33-44.

### 15. Modernizing reconfigurations

Nile Green (2011). *Bombay Islam: The Religious Economy of the West Indian Ocean, 1840-1915*. Cambridge University Press, 90-117.



## 東南アジアにおけるイスラームの歴史(5)

R. Michael Feener (2010). " New Networks and New Knowledge: Migrations, Communications and the Refiguration of the Muslim Community in the Nineteenth and Early Twentieth Centuries, " in: The New Cambridge History of Islam, volume 6 (Robert Hefner, Ed.). Cambridge University Press, 39-68.

Jeffrey Hadler (2009). Muslims and Matriarchs: Cultural Resilience in Minangkabau through Jihad and Colonialism. Singapore: NUS Press, 138-155.

M.C. Ricklefs, (2006). " The Birth of the Abangan, " Bijdragen tot de Taal-, Land- en Volkenkunde 162.1: 35-55.

### 【履修要件】

This class will be conducted as a seminar. Each class meeting will open with a presentation by the instructor, followed by discussion of the assigned texts. At regular points in the course, individual students will be required to make short presentations on particular readings to open up the conversation. Individual copies of all materials assigned for a particular day must be brought to class with you to facilitate direct reference to particular passages for discussion. Active class participation will thus form a major component of one ' s overall grade for the course.

### 【成績評価の方法・観点】

Class attendance and active participation (50%), in-class presentation of assigned readings (50%).

### 【教科書】

All of the required readings are available on Panda.

The CSEAS Library has a wealth of references materials on the region, including atlases, dictionaries, grammars, and encyclopedias.

### 【参考書等】

( 参考書 )

授業中に紹介する

In addition to print resources, you can find a wealth of primary source material online including digitized manuscripts from:

#8226 The Endangered Archives Programme: <https://eap.bl.uk/search?query=indonesia>

#8226 The British Library: <http://www.bl.uk/manuscripts/BriefDisplay.aspx?size=50>

o Please also check out their very informative ' Asian and African Studies Blog ' : <https://blogs.bl.uk/services/blog/6a00d8341c464853ef017ee63efb3d970d/search?filter.q=southeast+asia&search.x=0&search.y=0&search=Search>

#8226 DREAMSEA Project Archive at the Hill Monastic Manuscript Library: <https://hmml.org/research/dreamsea/>

#8226 The Malay Concordance Project searchable database of classical texts: <https://mcp.anu.edu.au>

#8226 The Malay Concordance Project searchable database of classical texts: <https://mcp.anu.edu.au>

#8226 Handlist of Jawi Authors and their Works: <http://faculty.washington.edu/heer/handlist23.pdf>

-----  
東南アジアにおけるイスラームの歴史(6)へ続く

## 東南アジアにおけるイスラームの歴史(6)

#8226 The Maritime Asia Heritage Society online archive: <https://maritimeasiaheritage.cseas.kyoto-u.ac.jp> also contains a number of digitized manuscripts: <https://maritimeasiaheritage.cseas.kyoto-u.ac.jp/manuscript-viewer/>

o Other useful references are available there as well including an interactive timeline: <https://maritimeasiaheritage.cseas.kyoto-u.ac.jp/resources/#timeline>

o An online publication series: <https://maritimeasiaheritage.cseas.kyoto-u.ac.jp/blog/>

o Interactive 3D models of historical sites, buildings and objects in Aceh: <https://sketchfab.com/MaritimeAsiaHeritageSurvey/collections/heritage-of-aceh-indonesia>

### [授業外学修（予習・復習）等]

Class discussions will require all students to have done the assigned readings carefully enough beforehand to have active and informed discussions of them in class.

### （その他（オフィスアワー等））

Tuesdays 16:00-18:00, and appointment.

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 51351 SB31			
授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture I		担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所 教授 石川 登 東南アジア地域研究研究所 教授 三重野 文晴 東南アジア地域研究研究所 教授 小林 知 東南アジア地域研究研究所 教授 FEENER, Michael 東南アジア地域研究研究所 教授 甲山 治 東南アジア地域研究研究所 准教授 中西 嘉宏 東南アジア地域研究研究所 准教授 柳澤 雅之 東南アジア地域研究研究所 准教授 町北 朋洋	
配当学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・前期
曜時限	水3	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】					
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理などを研究する上での、基礎的な問題設定とアプローチの方法に関する演習をおこないます。					
【到達目標】					
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む基礎的な研究能力を養います。					
【授業計画と内容】					
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめの総合討論					
【履修要件】					
博士予備論文審査にまだ合格していない者。					
【成績評価の方法・観点】					
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。					
【教科書】					
使用しない ゼミの出席者は、積極的に質疑応答に参加するようにしてください。					
【参考書等】					
(参考書) 授業中に紹介する					
【授業外学修(予習・復習)等】					
授業後は、配布されたレジュメや資料、各自のノートをもとに内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにするよう心がけてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。					
(その他(オフィスアワー等))					
各教員の個別のオフィスアワーを参考にしてください。					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-AAA01 51352 SB31					
授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture II			担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所	教授	石川 登
					東南アジア地域研究研究所	教授	三重野 文晴
				東南アジア地域研究研究所	教授	小林 知	
				東南アジア地域研究研究所	教授	FEENER, Michael	
				東南アジア地域研究研究所	教授	甲山 治	
				東南アジア地域研究研究所	准教授	中西 嘉宏	
				東南アジア地域研究研究所	准教授	柳澤 雅之	
				東南アジア地域研究研究所	准教授	町北 朋洋	
配当学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・後期		
曜時限	水3	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】							
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関わる具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこないます。							
【到達目標】							
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。							
【授業計画と内容】							
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論							
【履修要件】							
博士予備論文審査にまだ合格していない者。							
【成績評価の方法・観点】							
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。							
【教科書】							
使用しない							
【参考書等】							
(参考書) 授業中に紹介する							
【授業外学修(予習・復習)等】							
授業後は、配布されたノートやレジュメ・資料などをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。							
(その他(オフィスアワー等))							
各教員ごとのオフィスアワーを参照してください。							
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。							

科目ナンバリング		G-AAA01 71353 SB31				
授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture III		担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所	教授	石川 登
				東南アジア地域研究研究所	教授	三重野 文晴
			東南アジア地域研究研究所	教授	小林 知	
			東南アジア地域研究研究所	教授	FEENER, Michael	
			東南アジア地域研究研究所	教授	甲山 治	
			東南アジア地域研究研究所	准教授	中西 嘉宏	
			東南アジア地域研究研究所	准教授	柳澤 雅之	
			東南アジア地域研究研究所	准教授	町北 朋洋	
配当学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・前期	
曜時限	水5	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語	
【授業の概要・目的】						
東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関する広い課題を取り上げ、総合的な視点からの問題把握と研究方法についての演習をおこないます。また、博士論文の作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこないます。						
【到達目標】						
東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。						
【授業計画と内容】						
第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論						
【履修要件】						
博士予備論文の審査に合格した者。						
【成績評価の方法・観点】						
個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。						
【教科書】						
使用しない 授業中に適宜指導します。						
----- 総合地域論研究演習 (2)へ続く -----						

## 総合地域論研究演習 (2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業後は、配布されたやレジュメ・資料やノートをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。

### (その他(オフィスアワー等))

各教員のオフィスアワーを参照してください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA01 71354 SB31				
授業科目名 <英訳>	総合地域論研究演習 Research Seminar on Environment, Society and Culture IV		担当者所属・ 職名・氏名	東南アジア地域研究研究所	教授	石川 登
				東南アジア地域研究研究所	教授	三重野 文晴
			東南アジア地域研究研究所	教授	小林 知	
			東南アジア地域研究研究所	教授	FEENER, Michael	
			東南アジア地域研究研究所	教授	甲山 治	
			東南アジア地域研究研究所	准教授	中西 嘉宏	
			東南アジア地域研究研究所	准教授	柳澤 雅之	
			東南アジア地域研究研究所	准教授	町北 朋洋	
配当学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・開講期	2024・後期	
曜時限	水5	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語	
【授業の概要・目的】						
<p>東南アジアの生態文化複合系の動態把握、社会・文化・政治・経済にまたがる動態とその相関、ならびに地域間比較を通じての地域固有の論理の析出などに関する広い課題を取り上げ、それを先端的な学術研究の動向に結びつけて発展させるための演習をおこないます。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこないます。</p>						
【到達目標】						
<p>東南アジア地域研究の諸課題について、自主的、継続的に取り組む研究能力を養います。</p>						
【授業計画と内容】						
<p>第1週 オリエンテーション 第2 - 14週 各自の研究報告を中心とする演習 第15週 まとめと総合討論</p>						
【履修要件】						
<p>博士予備論文の審査に合格した者。</p>						
【成績評価の方法・観点】						
<p>個別研究報告の内容と、毎回のゼミへの出欠と討論への参加度などによります。</p>						
【教科書】						
<p>使用しない</p>						
----- 総合地域論研究演習 (2)へ続く -----						

## 総合地域論研究演習 (2)

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

授業後は、配布されたレジュメ・資料やノートをもとに各自内容を振り返り、質問できなかった疑問点などを自分自身で明らかにしてください。また、事前にレジュメや資料が配られた場合は、十分な時間をとって目を通してから、授業に参加するようにしてください。

### (その他(オフィスアワー等))

各教員のオフィスアワーを参考にしてください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。



科目ナンバリング	G-AAA01 61801 GB31				
授業科目名 <英訳>	東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。					
<b>[到達目標]</b>					
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習を計15回おこなう。					
<b>[履修要件]</b>					
博士予備論文審査にまだ合格していない者。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
<b>[教科書]</b>					
授業中に指示する					
<b>[参考書等]</b>					
(参考書) 授業中に紹介する					
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>					
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA01 71802 GB31				
授業科目名 <英訳>	東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。					
<b>[到達目標]</b>					
博士論文に関する基本的事項を理解する。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習を計15回おこなう。					
<b>[履修要件]</b>					
博士予備論文審査に合格した者。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
<b>[教科書]</b>					
授業中に指示する					
<b>[参考書等]</b>					
(参考書) 授業中に紹介する					
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>					
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA01 71803 GB31				
授業科目名 <英訳>	東南アジア論課題研究 Guided Research on Southeast Asian Area Studies III	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員		
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)	使用言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>					
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。					
<b>[到達目標]</b>					
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。					
<b>[授業計画と内容]</b>					
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習を計15回おこなう。					
<b>[履修要件]</b>					
博士予備論文審査に合格した者。					
<b>[成績評価の方法・観点]</b>					
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
<b>[教科書]</b>					
授業中に指示する					
<b>[参考書等]</b>					
(参考書) 授業中に紹介する					
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>					
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析					
(その他(オフィスアワー等))					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA01 51804 FJ31				
授業科目名 <英訳>	アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar I	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員		
配当学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
生態・社会・文化に根ざした地域の特色を理解し、地域が抱える現代的な課題を研究課題として発掘するためのフィールドワーク手法を学ぶ。					
<b>【到達目標】</b>					
地域の特性への理解を深め、研究課題を発見するためのフィールドワーク手法を学ぶ。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。					
<b>【履修要件】</b>					
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
教員とともに現地調査を計画し（4回分）、教員の指導のもとに現地調査を行い（10回分）、帰国後に指導教員の指導のもとにレポートを作成する。（1クラス）					
<b>【教科書】</b>					
授業中に指示する					
<b>【参考書等】</b>					
（参考書） 授業中に紹介する					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA01 61805 FB31				
授業科目名 <英訳>	アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar II	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員		
配当学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。					
<b>【到達目標】</b>					
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう能力を身につける。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。					
<b>【履修要件】</b>					
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
<b>【教科書】</b>					
授業中に指示する					
<b>【参考書等】</b>					
（参考書） 授業中に紹介する					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。					
（その他（オフィスアワー等））					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング	G-AAA01 71806 FB31				
授業科目名 <英訳>	アジア臨地演習 Asian Area Studies On-site Seminar III	担当者所属・ 職名・氏名	アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員		
配当学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・通年不定
曜時限	その他	授業形態	講義と実習（対面授業科目）	使用言語	日本語及び英語
<b>【授業の概要・目的】</b>					
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。					
<b>【到達目標】</b>					
フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、研究発表や討論、および研究課題に即した実践活動を行う能力を身につける。					
<b>【授業計画と内容】</b>					
学生は教員とともに研究発表や実践活動の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地でそれを行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。					
<b>【履修要件】</b>					
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、そのセメスター内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>					
<b>【成績評価の方法・観点】</b>					
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。					
<b>【教科書】</b>					
授業中に指示する					
<b>【参考書等】</b>					
（参考書） 授業中に紹介する					
<b>【授業外学修（予習・復習）等】</b>					
臨地調査への積極的な取り組みが求められる。					
<b>（その他（オフィスアワー等））</b>					
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。					

科目ナンバリング		G-AAA01 81808 LJ31			
授業科目名 <英訳>	アジア地域関連論特殊講義 Special Lecture on State and Society I		担当者所属・ 職名・氏名	人と社会の未来研究院 特定講師 小西 賢吾 人と社会の未来研究院 准教授 熊谷 誠慈	
配当学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・開講期	2024・後期
曜時限	水2	授業形態	講義（対面授業科目）	使用言語	日本語
[授業の概要・目的]					
<p>近年、SDGsなど、持続可能な開発の重要性が説かれるようになり、経済至上主義からの脱却が重要視されている。いち早く、持続可能な開発を国是とした国が存在する。それはブータン王国である。同王国は1970年代に、ジクミ・シンゲ・ワンチュク第4代国王が「国民総幸福」(GNH: Gross National Happiness)を提唱し、以後、幸福政策を推進してきた。わが国にも、東京都荒川区が同政策に注目、荒川区民総幸福度（GAH）を提唱、その動きは全国自治体に広まっている。</p> <p>幸福政策で有名なブータンであるが、その幸福哲学の根底には、仏教思想が存在する。ブータンは17世紀にシャブドゥン・ガワン・ナムゲル(1594-1651)が創立された。シャブドゥンがチベット仏教のドゥク派の座主であったことから、以後、ブータンの国教はドゥク派仏教となり、仏教は同国の精神的、文化的基盤となった。ブータン地域には、7～8世紀にチベットより仏教が伝わったとされている。シャブドゥンによるブータン建国以前より、ブータンにはチベット仏教の各宗派が布教をし、拠点を形成し、ブータン文化を構築してきた。すなわち、ブータンを理解するためにはチベットおよびチベット仏教の理解が不可欠である。</p> <p>ブータン・チベットを含む地域は、チベット高原やヒマラヤ山脈周辺域の生態環境に立脚し、土着のボン教をはじめとする多様な信仰と仏教が結びついた独自の宗教文化が形成されてきた。本授業では、文献資料の取り扱いに加えて、フィールドにおける調査方法論についても概説し、現地の文脈からチベット・ブータン文化を理解するための基本的視座を構築する。</p> <p>以上を踏まえて、本授業では、チベットおよびブータンの歴史、社会、文化、宗教について概観し、ブータンを含むチベット文化圏について多角的に理解することを目標とする。</p>					
[到達目標]					
本授業では、チベットおよびブータンの歴史、社会、文化、宗教について概観し、ブータンを含むチベット文化圏について多角的に理解することを目標とする。					
[授業計画と内容]					
第1回 イン트로ダクション（小西・熊谷）					
第2回～第5回 チベットおよびブータン概論（熊谷）					
第6回～第14回 チベットおよびブータンの文化、社会、歴史、政治に関する各論と文献講読等を行う。文献は受講者の関心に基づいて選択する。調査方法や必要な語学情報等についても、適宜、解説・指導する。（小西）					
第15回 まとめ（小西・熊谷）					
受講者の数やその関心によって、授業の進め方を変更する可能性がある。					
アジア地域関連論特殊講義 (2)へ続く					

アジア地域相関論特殊講義 (2)

-----  
【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点】

成績評価は、平常点に基づいて行う。

【教科書】

授業中に指示する

【参考書等】

(参考書)  
授業中に紹介する

【授業外学修(予習・復習)等】

配布資料を事前に参照していただくことが望ましい。

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。